

SDGサミット政治宣言

「持続可能な開発のための十年分の行動及び実行に向けて」

(骨子)

地球規模課題総括課

令和元年9月24日

1 我々のコミットメント

- 2030アジェンダを実施する決意を確認し、2030年までに共通目標を達成できるように今後10年間、更に野心的かつ加速された対応を開始。2030アジェンダの中核にある、誰一人取り残さないというコミットメントを再確認するとともに、2030アジェンダの原則を再確認。(OP1-5)
- 2030アジェンダの理念及び持続可能な開発目標(SDGs)の目標及びターゲットの不可分性を改めて確認し、持続可能な開発の経済・社会・環境的側面のバランスをとりながら、平和で公正かつ包摂的な社会、ジェンダー平等、すべての女性・女児のエンパワーメント、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ、栄養等を実現することを改めて決意し(OP6-8)、最も脆弱な国々が直面する特有の課題を認識するとともに(OP9)、特にジェンダー平等(OP10)及び気候変動や環境保護、防災に関する課題(OP11-12)を解決する重要性を強調。
- 2030アジェンダ及びアディス・アベバ行動目標の実施に向けて更に注力し、持続可能な世界を次世代へ受け継ぐため、すべてのステークホルダーが協力していく重要性を強調(OP13-15)。

2 今日の我々の世界

- 2015年以降、あらゆるレベルにおいて多くの取組が行われ、SDGsが国の政策に組み込まれ、民間セクターの関与も増していることを認識し(OP16)、国連開発システムの改革を進める国連事務総長の継続的な努力を歓迎し(OP17)、自発的国家レビュー(VNR)を含め、国連経済社会理事会の下で開催されているハイレベル政治フォーラム(HLPF)での取組を歓迎(OP18)。
- SDGsの進捗に関する事務総長報告書及び持続可能な開発に関するグローバル報告書において、極度の貧困や子ども・新生児の死亡率削減、電気と安全な飲料水へのアクセス、陸上及び海洋保護地域の範囲の拡大等、複数の分野で進歩を遂げたことが示された一方(OP19)、貧困、飢餓、ジェンダー平等、貧富の差の拡大、生物多様性の損失、環境の悪化、海洋プラスチックごみ、気候変動、災害リスクの増加が続いていることを危惧(OP20)。
- 国際的移住は、出身国、経由国及び目的地の国々の発展にとって重要な現実であり(OP21)、暴力的過激主義、テロリズム、腐敗、国際的な健康危機、人道危機や人々の強制的な避難は、ここ数十年の開発の進展の大部分を覆す恐れがあることを認識(OP22)。
- 多くの地域において紛争と不安定性が継続又は激化し、自然災害がより頻繁かつ激甚化している中、SDGsの達成が阻まれている(OP23)。

3 行動の加速に向けた呼びかけ

- すべてのレベル及びあらゆるステークホルダーによる行動を加速する緊急の必要性を認識するとともに、アディス・アベバ行動目標、仙台防災枠組等、国連の主要な枠組全体での協調の必要性や、2030アジェンダとパリ協定の相乗効果を認識（OP24）。
- SDGサミット及び本ハイレベルウィークにおいて首脳たちが表明した自発的な行動を歓迎し（OP25）、2030アジェンダにとって決定的な10年を歩み始めるにあたり、国連事務総長に対し、SDGサミットのフォローアップとして、政府、市民社会、民間部門及びその他ステークホルダーの関与のもと、解決策を生み出し、実施における体系的なギャップに対処するための行動を加速させることを要請（OP25-26）。
- 2030アジェンダ及びSDGsを達成するという決意を示すため、我々はより迅速に、より多くの取組を進める必要があり、そのため、a) 誰一人取り残さない、b) 適切かつ的確に管理された資金の動員、c) 国内実施の強化、d) より統合された解決策のための体制の強化、e) 実施を加速するための地域における取組強化、f) 災害リスクの軽減と強靱性の構築、g) 国際協力とグローバルパートナーシップの強化による課題解決、h) 持続可能な開発のためのデジタル変革に重点を置いた科学技術イノベーション（STI）の活用、i) SDGsのためのデータと統計への投資、j) ハイレベル政治フォーラムの強化、にコミットする（OP27）。
- 2030年までにこのビジョンを実現するため、今後10年間で共通の努力を加速することを誓う。（OP28）。

（了）